北海道シニアゴルフ選手権〈最終日〉

混戦制した道北の雄

千代逆転初V

◇15日◇札幌南GC駒丘コース（6573ヤード、パー72）◇出場71人

首位に2打差、5位スタートの千代雅則（61＝セント旭川）がトータル2オーバー146で逆転初優勝を飾った。最終18番ホールでバーディーを奪い、混戦を頭一つ抜け出した。1打差の2位には石岡利昭（67＝札幌）ら4人が並んだ。マッチングスコアカード方式により上位6人には11月9～11日に熊本空港CCで開催される日本シニア選手権、日本スポーツマスターズ出場登録をしている上位3人に9月14～16日に石川・片山津GCで行われる同大会への出場権がそれぞれ与えられた。

「やっと勝てた」

「道北の雄」がついに全道タイトルを手にした。最終18番ロング。バンカーからの第3打をピンそば30センチにピタリと寄せ、難なくバーディーを奪った千代は同組の高橋成司（56＝ツキサップ）と笑顔で握手した。この時点で通算3オーバーに4人が並ぶ大混戦から1歩抜け出す。最終組の三宅秀範（56＝札幌国際）が18番でバーディーを逃し、初優勝が決定した。

「やっと勝てたってことかな」。これまで所属するセント旭川のクラブチャンピオン13回。全道アマも決勝競技に出場常連で何度か上位にも顔を出す実力者だが、タイトルとは無縁だった。全道シニアも04年3位、05年2位とあと一歩届かなかった。「私は常々ゴルフは勝つ人は1人だけ、あとは2位も3位も同じと思っている。何回も悔しい思いもしてきたけど、負けず嫌いだったことが今日につながったのでしょう」としみじみ話した。

首位に2打差の5位から逆転を狙ったこの日は、アウトをパープレーの36でターン。13、14番で連続バーディーを奪って抜け出すかに見えた。しかし、15番でボギーをたたくと、続く16番ショートでダブルボギー。「やっちゃったと思いましたね。クラブの番手を読み違えたんです」。フォローの風に、51でも届く距離だったが41を選択しグリーンオーバー。「でも、アイアンの芯に当たるナイスショット。ある意味、納得のダボでした」。続く17番で難しいパーパットを入れ、最終ホールに望みをつないだ。

▶日本シニアも

出場権を獲得した日本シニアは04年以来2度目となる。所属のセント旭川の理事長兼キャプテン、道北アマ研修会の会長と要職を務めるなど、多忙の千代だが「前回（41位タイ）を上回れるよう、頑張ってみたいですね」。北のシニアチャンピオンとして上位進出を狙う。

ベストスコア67

◆千代雅則（せんだい・まさのり）1949年（昭24）9月22日旭川生まれ。ゴルフ歴は40年で現在ハンディは0。得意なクラブはパターで、ベストスコア67。家族は妻公枝（きみえ）さん（58）と1女。

最終18番でバーディーを決め同組の高橋成と笑顔で握手する千代（右）　㊨混戦を制した千台は優勝カップと楯を大きく掲げた

1打差の2位タイ4人

八田1・2メートルが…

❍…最終日ベストスコアの72で初日15位から2位タイまで追い上げた八田耕造（55＝札幌）は「あれを入れときゃだよね」と悔しがることしきり。それもそのはず、最終18番でバンカーからの第3打をピン下1・2メートルにつけながら、ストレートラインのバーディーパットを右に外してしまった。「これを入れてたらいいとこに絡むぞと思ってたんですけどね…」。今年からシニア入りしたばかり。さっそくやってきたビッグなチャンスを逃し、やや落胆気味だった。

岡本追い上げも

❍…首位に2打差の5位スタートの岡本昭彦（57＝阿寒）も最終18番でバーディーパットを外し、あと1打に泣いた。残りピンまで60ヤードの第3打を58度のAWで1・5メートルに寄せたが実らず。「16番で風の計算を誤ってしまった。ショートホールでパーを3個取るのをノルマにしていましたが、2個しか取れませんでした」と冷静に分析していた。

三宅 運悪かった

❍…「いっそバンカーに入ってくれた方が良かったのにね」。最終18番ロングでプレーオフを狙った三宅は、アンラッキーに泣いた。3Wで打った第2打はグリーン左手前のバンカー付近に飛んだが、バンカーをならすレーキに当たってライの悪い位置にボールは止まった。クラブ選択に悩んだ揚げ句、52度のAWで打ったが、ピンを10メートルオーバー。バーディーパットを外し、夢は断たれた。「17番で起死回生のバーパットが入ったので、18番勝負と思ってました。スプーン（3W）が薄く入ってしまった」と残念そうだった。

67歳石岡は満足

❍…初日71で首位に立った石岡だが、最終日76で1打差の2位タイに終わった。それでも通算4オーバーで迎えた最終18番で、2メートル30センチのバーディーパットをねじ込む意地を見せた。決勝ラウンドに進出した選手では最年長の67歳。「十分、十分。初日うまくいったし、最後も良しで締められたからね」と満足そう。昨年の日本ミッドシニアで3位タイに入り、今年のシード権を獲得している。「ミッドシニアに行けるから、この大会はそんなにガツガツしていなかった。結果として、それが良かったのかな」と振り返った。

66歳で決勝ラウンド進出を果たした高松勝敏（グレート札幌）　（60位タイに）昨日友人と飲み過ぎてお酒が残っていた前半はダメでしたが、後半は39で踏ん張りましたよ。仕事もまだ現役で月5～6回程度しかプレーができないけど、楽しくやることが私のゴルフ人生のすべてです。

マッチングスコアカード方式で最後の6人目の日本シニア出場権を獲得した中山千徳（ちのり、58＝札幌芙蓉）　17番から左足親指付け根あたりのまめがつぶれて痛かった。ショットパターは良かったんでだけど、パターが全然入らなかったね。

◆北海道シニアゴルフ成績◆

順	選手名	（所属）	通算	1R	最終（アウト、イン）
＋2	❶千代雅則	（セント旭川）	146	73	73（36、37）
＋3	❷八田耕造	（札幌）	147	75	72（35、37）
	岡本昭彦	（阿寒）	147	73	74（36、38）
	三宅秀範	（札幌国際）	147	72	75（37、38）
	石岡利昭	（札幌）	147	71	76（39、37）
＋4	❻中山千徳	（札幌芙蓉）	148	76	72（35、37）
	高橋成司	（ツキサップ）	148	72	76（39、37）
＋5	❽小林一利	（ザ・ノースカントリー）	149	72	77（38、39）
＋6	❾細川要一	（クラック）	150	74	76（37、39）
	高橋孝司	（鹿部）	150	73	77（38、39）
＋7	⓫山貫則夫	（十勝）	151	73	78（40、38）
	菊地松夫	（クラック）	151	73	78（40、38）
＋8	⓭関根淳一	（釧路）	152	75	77（39、38）
	高木泰成	（クラック）	152	74	78（41、37）
	杉本守	（エバーグリーン）	152	77	75（37、38）
＋9	⓰西川和夫	（札幌国際）	153	77	76（38、38）
	佐藤行宏	（帯広国際）	153	77	76（38、38）
	斉藤久雄	（シャムロック）	153	76	77（39、38）
	石井孝	（羊ヶ丘）	153	75	78（39、39）
	鈴木啓一	（真駒内）	153	78	75（37、38）
	藤嶋信雄	（帯広白樺）	153	74	79（39、40）
	上田光夫	（釧路風林）	153	73	80（42、38）
＋10	㉓沢田石勝	（帯広広樺）	154	77	77（37、40）
	宮本知治	（千歳空港）	154	79	75（37、38）
	浜田秀樹	（クラック）	154	76	78（40、38）
	小林和夫	（函館GK）	154	79	75（36、39）
	余目好英	（札幌芙蓉）	154	76	78（39、39）
	小野守	（グレート札幌）	154	75	79（41、38）
	石黒敏郎	（ニドムクラシック）	154	75	79（42、37）
	高橋清孝	（大雪山）	154	74	80（39、41）
＋11	㉛前道正司	（サホロ）	155	76	79（41、38）
	森有次	（オークウッド）	155	75	80（42、38）
	前田人司	（エムズ）	155	78	77（39、38）
	高橋和雄	（ANAダイヤモンド）	155	77	78（39、39）
＋12	㉟手林祐一	（釧路風林）	156	77	79（44、35）
	猿渡裕己	（羊ヶ丘）	156	79	77（40、37）
	海野保幸	（北見）	156	75	81（42、39）
	杉野修	（ノーザンアーク）	156	77	79（39、40）
＋13	㊴柴田敏彦	（グレート札幌）	157	77	80（38、42）
	小山勝夫	（伊達）	157	79	78（40、38）
	夏山永吉	（ちとせインター）	157	75	82（41、41）
	金井敏行	（北海道）	157	75	82（39、43）
	沢田憲一郎	（千歳）	157	78	79（39、40）
	山根繁之	（アンビックス函館）	157	77	80（43、37）

【注】順位は39位タイまで

フォトセイ鈴木正章